

Monthly

QRコード対応
WEB電話帳付き

ビジネスの新大陸を発見!! C O L U M B U S

廃石膏ボードをリサイクル
産業廃棄物が地盤改良剤に

(株)真人

真人が取り組んでいるのは廃石膏ボードのリサイクル。石膏ボードは、焼き石膏に鋸屑などを混ぜ、厚紙にはさんで板にしたもの。防火性・耐熱性・耐久性があり、壁や間仕切り、天井などに使用されている。



同社のリサイクル工場

が、建設現場や解体現場では、この石膏ボードの廃材が大量に発生することから、その処理方法が

問題になっている。そこで同社は、廃石膏から石膏をリサイクルする技術を開発。石膏ボードを紙と石膏粉に分離し、石膏粉を加熱処理することで無害な物質として再利用できるようにした。

現在、このリサイクル石膏を広めようと地元のNPOと共同でフラワーポットを開発中だ。島原市役所や諫早駅の構内など、県内各所に設置して話題を呼んでいる。



廃石膏リサイクルセンター

90年に建設会社としてスタートした同社がリサイクル事業に取り組んだのは3年前。公共工事の減少で仕事は減る一方。そこで「新しいビジネスを求めて廃材となっていたプラスチックや木くずのリサイクルに取り組んだ」のがキッカケになった。廃石膏は「これから廃棄量がさらに増えるので需要は増えるはず」と。すでに長崎県では地盤改良剤などに同社

のリサイクル石膏を利用している。大量に発生する産業廃棄物をリサイクルするこのビジネスは、今後さらに注目されること間違いナシだ。

真人のスゴさは廃石膏ボードを完全リサイクルしたことです。この厄介な石膏ボードを加熱処理して無害化し、地盤改良材及び凝集剤としてよみがえらせたことがスゴイ。業界のパイオニアです。全国的な普及を目指し、長崎県も資金調達や経営の後押しを積極的に行っています。

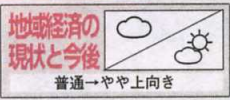
太鼓判
押します!!



長崎県産業振興
団ベンチャー企
業支援グループ
剛さん

地元元気企業に聞きました 現在の状況とこれからの展望 熊本県

地元経済の現状 県内に進出している大手が好調なので、景気はやや回復したといわれるが、中小企業はまだまだ厳しい状況。そこで県は地場企業の育成に取り組んでいる。当社の「GTスパイラル杭」も熊本県工業技術センターの「熊本県工業技術大賞」を受賞したことで信頼が高まった。こうした育成策は大事だ。



普通→やや上向き

これからのビジネスはどうなるか

県の地場振興政策効果が出てくることを期待する。「GTスパイラル杭」は県内では設計担当者の理解を得て普及しつつあるが、今後、全国展開に向けては、いかにして設計の段階で技術の有用性を理解してもらうかが重要。ただモノを売るのではなく新技術を営業する感性を磨いていかなくてはならない。



GT・スパイラル(有)
代表取締役社長
後藤常郎さん
(熊本県熊本市)

会計人の眼

新幹線全線開通4年後が熊本経済の分岐点

熊本に景気回復の実感はない。これは地方分権にともなう地方の体力、施策の脆弱さが招いた結果ではないか。熊本市が発展するには九州新幹線が全線開通となる4年後の平成22年がキポイントになる。人口70万人で特例指定都市になれる特例法の期限でもある。ある市民団体では、九州新幹線の全線開通による熊本市のトンネル化(空洞化)を危惧し、阿蘇・熊本・天草を結ぶ「AKUA構想」を提唱し、地域の活性化をはかっている。サッカーではロッソ熊本のJリーグ参入が注目されている。これが実現すれば熊本の経済に元気を呼び戻すキッカケになるのではないかと思う。



宮本律夫
宮本税理士事務所
(熊本県熊本市)

お問い合わせは
コチラから



もっとも大切なのは熊本市が周辺都市との合併を成功させ、政令指定都市になれるかどうか。これらがすべて成功すれば、熊本経済の未来も明るいものとなる。中小企業に目を転ずると、今まで好況だった介護事業にも陰りがみえてきた。経営者は早急に企業改革・事業改革を押し出し、経営理念を確立することではないか。

社長のひとこと	社長の自社採点	
<p>QRコード対応のケータイ電話でご覧いただけます。</p>	企画開発力★★★★★	人材力★★★★☆
	営業力★★☆☆☆	専門性★★★★★
	成長力★★★★☆	リサーチ力★★★★☆
	収益力★★★★☆	計画性★★★★☆
	地域貢献力★★★★★	リスクマネジメント★★★★☆

会社概要 本社・〒854-1123 長崎県諫早市飯盛町里/ ☎0957-48-1022 F0957-48-1835
http://www.masato-kensetsu.com/index.html